

菅原会長（左）からプレート受け取る生徒たち



環境教育に力を入れている大仙市藤木の**大曲南中学**（黒田清志校長、118人）が、**国連教育科学文化機関**（ユネスコ）の「**ユネスコスクール**」に認定され、17日、**日本ユネスコ協会連盟**（東京）から認定プレートを贈られた。同校は2008年度から地球温暖化

## ユネスコスクールに認定

大曲南中

# 住民巻き込みエコ活動

をテーマとした勉強会を開いたり、校舎の外壁にアサガオやゴーヤを使って「緑のカーテン」を作るなどの活動を続けている。同校は昨年5月、市教育委員会を通じてユネスコにスクール加盟を申請し、ことし2月に認定の連絡を受けた。

ユネスコスクールは学校活動を通して貧困や人権問題、地球環境への理解を深めてもらうとユネスコが1953年に認定を始めた。各国の小学校、高校など約8500校が加盟し、活動内容について情報交換している。県内では秋田商業高校、明桜高校が加盟しており、大曲南中が3校目。

この日は秋田ユネスコ協会の菅原展子会長が同校を訪れ「今後も環境活動を頑張ってください」と述べ、生徒会長の澁江孟君（3年）にプレートを手渡した。同校は本年度、生徒が藤木小学校と角間川小学校に向



いて、取り組んでいる環境活動について発表するほか、学区内でペットボトルのキャップ回収に取り組み。澁江君は「多くの地域住民を巻き込んで、エコ活動を広げていきたい」と話していた。

（高橋広幸）

西仙北グリーンツム推進協議会（佐々木会長）は、大仙市西で29日から1泊2日、開く農作業体験者を募集している。田園や里山の魅力を味わうと、同校3年前から開催。西